

私と作業船

大作孝宏

日立建機日本株式会社 事業本部 事業統括部 本社営業部
業種別・応用製品推進グループ 営業課長



建設機械メーカーに入社して気づけば今年で28年目になり、会社人生も折り返しを過ぎました。

入社後、数か月間の研修を受け営業所へ配属となり、テリトリーを任され、様々な業種のお客様へ油圧ショベル（汎用機）の販売を行ってきました。

新人だった私は当時の鬼軍曹の様な先輩に毎日怒られ、今で言うパワハラ？を受けながら毎日毎日歯を食いしばりながら日々頑張っておりました。その後、海外赴任の経験もさせていただき、帰国後に配属となった部署で、初めて作業船（油圧ショベル・大型機）に携わる仕事をするようになりました。

汎用機についてはカタログを見ながらお客様との仕様打合せが出来ましたが、台船に搭載する油圧ショベルの大型機はカタログには記載の無い特殊仕様となります。油圧ショベルのブーム、アーム、バケットサイズの組み合わせ、また建設機械は、陸上での使用を目的に作られていることから、塩害対策や、マルポール条約に伴う認証についてなど、専門知識が必要で覚える事ばかりでした。

その様な状況の中、2011年3月11日、東日本大震災が発生し、当時、弊社の製造工場が津波被災の影響を受け、揚土船へ搭載予定の超大型油圧ショベルの納期へ大きく影響が出てしまいました。何とか工場関係者の協力を得て、事なきを得ましたが、今でも忘れる事ができません。その後、各被災港湾等に全国からの起重機船、ガット船、台船等が続々と投入され復旧・復興工事が本格的に進められました。そこでは国内最大級のバックホウ浚渫船も稼働しており、砕岩棒では壊すことが困難な防波堤等を、油圧ブレイカーによる効率の良い作業を行うことで港湾機能の急速な回復に貢献して

おりました。

復旧・復興工事の影響で、台船に搭載されているバックホウの入替も急増し、地場の海事業者様を担当している営業員から、営業支援で呼ばれては、全国を慌ただしく飛び回っていた事を、この文章を書きながら懐かしく思い出しました。

また、ガット船分野では、新規のお客様より強いご要望をいただき、JG船への油圧ショベル搭載という造船業、建機メーカーでも初の試みとなる非常に大きな取組をさせていただきました。船舶に関わる知識が全く無かった私は、お客様と造船所の方々と何度も何度も打合せをさせていただきましたが、認証関係では様々な困難がありました。文字数に限りがございますのでここでは詳細について割愛させていただきますが、各関係認証機関の方々のご支援もあり、遂にJG船への油圧ショベル搭載が現実化されました。

一言に作業船といっても様々な種類の作業船がありますが、油圧ショベルを搭載した、バックホウ浚渫船、揚土船、プレミックス船、ガット船等が私の関わる作業船となります。

最後に、河川や港湾を支える作業船は、日本の経済を支える上で必要不可欠な存在だと思いません。

間接的ではありますが油圧ショベルがその一助となるべく、今まで以上に、お客様の現場へ足を運び、どのような使われ方をしているのか？どのようなニーズがあるのか？お客様のお声を油圧ショベルへ反映させ日立建機のコーポレートカラーとなる「Reliable Orange」に輝く油圧ショベルを一台でも多く搭載いただけるよう取り組んで参りたいと思います。